

II 授業と記録

1. 授業実践関係の記録

授業実践の記録は、図のように参加者も各自学習指導案を作り、授業者の学習指導案と併せて使い、観察して下さい。各学習指導案との違い、良い点、改善点、さらに参加者が自分の指導技術、方法、指導力などに役立てることができるよう学習指導案の用紙や授業観察(表)用紙に記入して下さい。

現在は付箋に記入し、学習指導案または授業観察(表)などに貼り付けると良い。(付箋の色で記入内容を区別することもできます。)

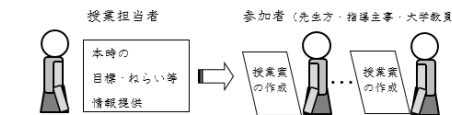
(注) 高等学校等は、授業参観が困難なため、アナライザーの集団反応曲線や授業のビデオ映像や学習反応曲線を見て研究会が行われていました。(1970～1980年)

授業参観記録(授業中に記入)

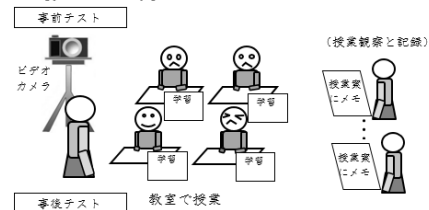
授業のステップ	授業者の指導の良い点・問題点	参加者の授業案の良い点・問題点	本時の改善点 (自分の学習指導方法・技術の参考点)
導入			
各分節で区切る			
展開			
まとめ			

先生方は、授業者の指導の良い点・改善点と参加者が自分の指導技術をいかに高めるかが大きな課題でした。その上で共同学習指導計画(学習指導案、教材、テスト、学習プリ

(ア) 参加者も1人ひとりが授業案を作ります!



(イ) 授業を記録します。



(ウ) 録画映像を見る(授業研究)

事前・事後のテスト、学習プリント(記入)(共同開発者も主役、全員の授業案を配布) 反応曲線など参考



ント等の作成が進められました。(とくに、1つの県でのクローズな分析ではなく、他の県の先生方も含めた共同実践研究です。)

2. 「授業中に書く」準備

(1) ノートの書き方の指導

ノートの書き方の指導方法と、教師の板書等の注意点はどのようなことですか。

(2) 授業中に使う学習プリントの作り方

どのような構成で、何を目的に書かせるようにしていますか。

(3) 授業研究として学習者の「意見、考え、気づいたこと」などを記入するメモ用紙は作りましたか。

(4) 先生の話(説明)、学習者の話などに自分の考えをメモする用紙は作りましたか。

3. まとめ、話し合い

「まとめ」、「話し合い」などでの教師と学習者の発言の様子です。

理解度 (わかった)	0.0	0.5	1.0
0 ~ 25%	教師		学習者
25 ~ 50%	学習者+		
50 ~ 75%	教師	学習者-	学習者+
75 ~ 100%	教師	学習者+	

(学習者-は、発言で分からなくなった場合)

学習者の+、-は、発言内容により (+) (-) と区別

理解度の 0~25%では、教師の発言が 8 割、学習者の発言が 2 割です。

25~50% (1/4~半数) では、学習者が多いことを示しています。

50~75% (半数~3/4) では、これまでと違った見方、考え方の発言をする学習者が出てきます。そうすると、他の者が分からなくなる場合がります。(深みを入れる発言)

(児童の発言で多くの者が分からなくなったとき、次の発言者の指名が重要で、教師の力量が問われます。)

先生方の話し合い、まとめでは、どの程度反対意見や深みがある発言で、他の学習者が困った(分からなくなった)顔をするか調べて下さい。

【要点】話し合い、まとめ

半数以上の学習者が分かった状況のとき

- ①これまでと違った見方の意見や疑問
- ②さらに深みのある意見や疑問

などの発言が出る。(指導としては、いろいろな見方、考え方が出るように。)

他の学習者は困り、または理解ができない者が出ます。

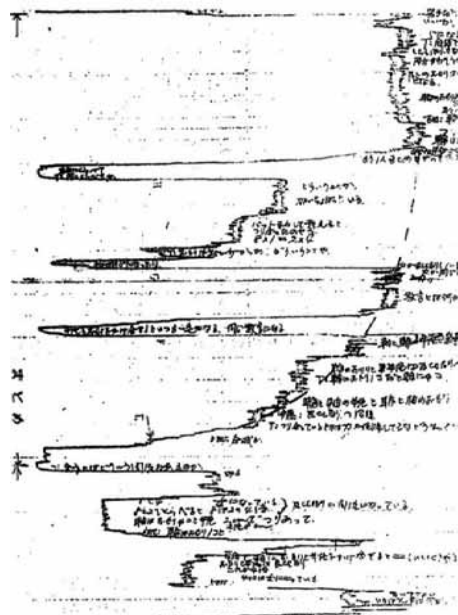
そこで、次の学習者達の発言で理解できるように指導して下さい。

…このときの指導が大切です。教師の学習者への理解力と判断力が必要です。

(考え方、深みを確かにして、思考、見方、・・・などを鍛える！)

先生の発問、問題、児童・生徒の話し合い、実験・実習などでアナライザーのスイッチを自由に押させ(たとえば、分かった: SW3、分からない: SW1 など)、学習者の反応を集めてテープレコーダー等に記録していました。このデータを授業後に Pen レコーダーに記録させ、記録紙の上に教師、児童・生徒の言語活動を文字で記入しました。

授業での教師、児童・生徒の言語活動と反応、さらにビデオで映像から授業の様子の分析ができます。



岩田晃先生の授業 (1968年)

4. 授業中の言語の指導

(1) すじ道のある発言

社会科、理科、国語、算数などで「論理的にすじ道のある言語活動」が求められています。

このためには (用語 結ぶ言語 用語) のように、用語と用語を論理的に結び表現する力を授業の言語活動の中で育成する必要があります。

◎それでは、論理的なすじ道のある表現が重要な算数で、これらの用語と用語を結びつける言語がどのように使われているか調べると、おおよそ次のようになります。

学年別新出操作言語一覧

1年生			2年生		3年生		4年生	5年生	6年生
ちいさい	いちばん	～でも	～から	～かどうか	A わる B	～当り	～以外	～おき	～につれて
ちがう	いろいろな	～と	～から…まで	～ごと	A わる B は C あら D	～から…へ	～以後	～に対する	拡大する
つなぐ	おおい	～したら	～したら	A かける B は	A を B でわる	～全体	～以上	～によって	細かく
どちら	おおきい	～の	～して…する	あたる	A を B 倍する	～とすると	～未満	順々に	縮小する
どんな	おなじ	～のうち	～ずつ	あつまる	あてはめる	～べつ	いくつかの	対応する	だんだん
ながい	かえる	～のほが	～すれば	いっばい	あまる	～ほど	各～	通分する	反比例する
ならべる	かぞえる	～まで	～だから	かさねる	およそ	A に B をかける	かけあわせる	同時に	ふくまれる
のぼす	くらべる	～め	～だけ	かんたん	回転する		軽い	違い	
はいる	けいさんする	～も	～で	ずらす	重なる		急	ならす	
はじめ	さきに	～や…		だいたい	区切る		四捨五入する	比例する	
はじめに	じゅんに	～より		正しい	見当をつける		全部で	平均する	
～る	じゅんばんに	…ない		近い	たがる		たてる	ます	
まとめる	しらべる	A から B をひく		ちょうど	ちがう		次つぎに	もとにする	
まるい	すぐ	A たす B は		とく	等分する		ともなう	約分する	
みじかい	すくない	A と B で～		はかる	なるべく		ふくめる		
みんな	ぜんぶ	A に B をたす		ひとつひとつ	はらう		分かれる		
もとにする	それぞれ	A ひく B は		まっすぐ	等しい				
もとめる	そろえる	あう		まわす	べつべつに				
やすい	たかい	あてはまる		まわる	交わる				
わかる	たくさん	あわせて		みんな	わりきれ				

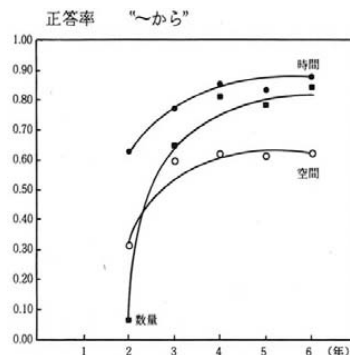
後藤忠彦・長尾順子他、言葉の力と考える力を育てる発問・学習プリントの手引き、日本アーカイブ協会、2015 (眞喜志悦子作成)

(3年生までに多くの話し言葉として論理的な思考操作に関する言語は出ています。(70～80%))

(2) 意味による正答率の違い

また、これらの言語の学習状況は、同じ言語でも意味によって正答率が違います。日常の授業でただ用語の説明のみではなく、このような言語に注意して指導する必要があります。

【例】「～から」では、時間と位置関係では正答率が違います。同じ「～から」でも意味によって「理解度、使えるかどうか」に違いがあります。時代によって変わるかもしれませんが、違いがあることは同じであると考えられます。



注意して発言させる言葉

	すじ道のある発言（論理的）	指導上の注意点	チェック
1年生	（は、が、の、を、に、とで表現）		
2年生	例 ～ので・・・です。		
3年生			
4年生			
5年生			
6年生			

（チェックは、学期・学年の終わりで、クラスまたは学習者が話せるようになったかどうかでチェックして下さい。各クラスで目標のように教室の前に提示している学校もあります。）

5. 学習指導の参考資料

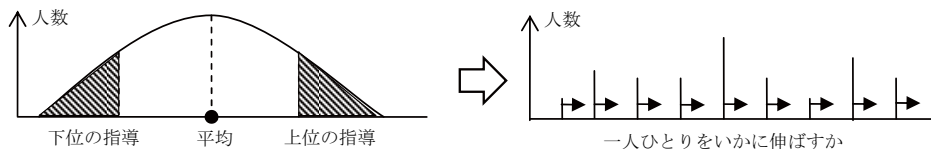
(1) 教師の発言…論理的すじ道のある発言

教師の説明、発問などで学習者たちの論理的思考を支える言語活動を整理し、リスト化してチェックして下さい。

(2) 授業での指導の観点と対応

木田宏先生の指摘

「教科書は、平均的な学習者を対象に作られており、教師の指導は平均より少し下位の者を対象に話している。指導はこれでよいのか。」



① 本時では、上位の者の指導をどのようにしていたか記述して下さい。

② 本時では、下位の者の指導をどのようにしていたか記述して下さい。

【メモ】[木田宏先生] 小学校の CAI 教育を見学され、児童に質問されたとき、中位の児童は先生の話（授業）が良い、上位・下位の児童は CAI の学習が良いと答え、日本の教師は指導・教材を考えるべきだと指摘されていました。

③ 先生は、どのような授業をされていますか。（上位、下位の学習者に対し）

(3) 発問、グループ討論など

学習指導のために過去の調査データが利用できます。授業から発問、確認、グループ討論、全体討論等のデータを調べ、表にしたデータ集です。(学習指導の参考までに)

(授業時は、次に示す当時の資料と比較し、授業での学習指導や言語活動、映像での学習活動の分析に利用できます。)

資料項目 \ 分布(四分位)	Q ₁	Q ₂	Q ₃
分節(区切り)の数	3	～	6
導入の所要時間	7分	10分	13分
まとめの所要時間	4分	6分	8分
確認の最初の応答	4秒	8秒	14秒
発問の最初の応答	10秒	14秒	20秒
問題の最後の応答	2.6分	3.7分	5.4分
グループ討論	2.2分	3.0分	4.0分
全体討論	1.2分	1.6分	2.4分

正答 \ 分布(四分位)	Q ₁	Q ₂	Q ₃
発問の応答	56%	77%	92%
問題の課題解決	46%	63%	83%
グループ討論	50%	69%	87%
全体討論	53%	73%	87%
分節の通過率	65%	85%	95%

今後、これらのデータの再検討が必要です。しかし、現在の授業でも学習指導の1つの参考資料として利用できます。

本時の授業で参考にしたい項目と実践方法(学習指導上の注意)について記入してください。
